

こんにちは、狭山市駅前交番です
皆さんの暮らしを守るのが
私たちの仕事です



（入間川1-1-1、電話2-2377）
交番は市民の心強い味方
地域性も大切にしながら日夜奮闘



取材中、落とし物を届けに来た男性。自分が落とし物をした場合は、落とし場所を管理する警察に届けなければならないそうです。届けは電話でも受け付け可能です。

REPORTER'S EYE



【リポーター】
須藤ウタ子さん(入間川)

リポーターズアイでは、行政のしくみや話題性のあることから、市内のいろいろな施設などを、市民のかたがリポートします。

今月は狭山市駅西口の顔である、駅前交番をリポートします。ここには12名の警察官が交替で勤務し、日夜市民の安全に気を配り、私たちの暮らしを守っているのです。
今回は、田端巡査部長に防犯治安維持や交通安全など、多岐にわたる職務内容についてお話を伺いました。交番は警察署などと違い、地域に根ざした仕事が多いため、



この交番の管轄は市内でも一番広い地域だそうで、すみずみまで行き届いた業務を行うことは、とても大変だろうと思いましたが、巡回などを通じて細かく観察をすること、こまめに地域の要望を聞くことなどを常に心がけているそうです。実際にお話を伺っている間にも、時々外の動きに素早く視線をはしらせ、常に意識しながらの仕事であることがよく分かりました。また、交番に出入りする人もとても多く、拾得物の管理や道案内など、私たちがよくお世話になるお仕事だけでも、とても忙しそうでした。ほかに、地域の交通安全のために管轄内の時間規制道路・駐車禁止の道路の見回りや、施設や自治会などで交通安全教室を開催することも、大切な仕事の一つだそうです。安全教室では聞く人の心に響く話をする心をかけ、実際の事例などを交えながら話をすることで、身近な事例には聞く人も関心をもつて耳を傾け、交通安全に対する意識も高くなることでした。

私も以前から、交通ルールを本当に理解し、実践するためには、身近な場面で実際に体験しながら覚えていくことが必要だと思っていたので、お話を伺って改めて、私たち市民も自分たちが主体となって地域の特性を理解し、交通ルールを守ることが大切だと思いました。
また、この交番の地域的な特徴としては、繁華街が近いので深夜まで緊張が続くのだそうです。熟睡りの児童生徒を恐喝する事件も起きやすいので、夜間は警察官総出で巡回をすることもあったことでした。
まちづくりは地域からとよく言いますが、交番のかたがたの努力もすべて地域に根づいたものであることが分かりとても勉強になりました。これからも市民が気軽に挨拶できるような、親しみのある頼れる交番として頑張っていたいだきたいですね。

人 HITO

宮岡 隆さん （県内ぶどう作り農家の先駆者）



県内でも稀に見るブドウ葉アの大粒の作業中（右側は後継者の隆さん）

「狭山のぶどうは最高だ」
言ってもらえるように
親子二代で頑張っています

宮岡さんは昭和33年からぶどう作り続け、今年で40年という専業農家です。当時は県下でもぶどう農家は珍しく、お手下となる先輩もいないという状況で、一人で山梨に一年間ぶどう作りの研修に行き、狭山市に広めました。
宮岡さんは当時を振り返り、「あの頃家業の養蚕の景気は下降気味でね、私はいろいろな書物などを読んで、私はいくつかの果樹農家の時代が来る」という確信、ぶどうが台風

に強いという経験上の知識、そして自分がぶどう好きだったことなどから、ぶどう作りをやりたいと思ったんです。その頃県内でもぶどうを作っている農家はなく、親父も周囲の人たちもみんな反対したんです。だから始めたときはたった一人で何でもやらなければならなかったんです。と遠い目をしてにが笑います。
こんなふうには、さまざまな経験を積まれた宮岡さんに、ぶどう作りの心構えなどをお伺いすると、「いつも考えるのは、ぶどうを食べた人がどんなことを思うか、つぎにまた買ってくれるか、そういう信が一番大切だということですね。ですから、最高の品質のものを作り、適正な価格で販売していくことが大前提ですし、そのために常に向上心を持ち続け、研究を怠ってはいけません。



これが宮岡さんが栽培している大粒のぶどうです。ふんわりとした食感が特徴です。

私には20年程前に大粒ぶどうの種なしを作ることに成功しましたが、これも、日頃の研究心が実を結んだわけなんです。そして現在も、欧州系高級品種であるモナリザ、ロザリオピアンコ、エレガントローズというぶどうを狭山で作ることを目標にしているんです。周りの人は、病気に弱くてハウスでなきゃ育たないから『狭山では無理だよ』って言うんだけど、大丈夫、5年もあればならせる自信がありますよ。」と頼もしいお言葉が返ってきました。そして、「これから狭山でもぶどうにハウス栽培を取り入れていかなければいけないと思っています。ですから、息子にはハウス栽培を勉強するために長野県に研修に行かせたりしたんです。だからハウスのことは息子の方が詳しいんです。これからは、親子二代で、とびっきりのぶどうを作れるよう、夢とプロの気概を忘れないで頑張ります。」と抱負を語ってくださいました。
県内のぶどう作りの先駆者である宮岡さん。その生き方はぶどう作りだけでなく、すべての人が生きていくうえで忘れてはならないことを教えてくださるようで、「8月になってぶどうの季節がきたら、宮岡さんの作ったぶどうをぜひ食べてみたい。」と思わせてくれました。



私には20年程前に大粒ぶどうの種なしを作ることに成功しましたが、これも、日頃の研究心が実を結んだわけなんです。そして現在も、欧州系高級品種であるモナリザ、ロザリオピアンコ、エレガントローズというぶどうを狭山で作ることを目標にしているんです。周りの人は、病気に弱くてハウスでなきゃ育たないから『狭山では無理だよ』って言うんだけど、大丈夫、5年もあればならせる自信がありますよ。」と頼もしいお言葉が返ってきました。そして、「これから狭山でもぶどうにハウス栽培を取り入れていかなければいけないと思っています。ですから、息子にはハウス栽培を勉強するために長野県に研修に行かせたりしたんです。だからハウスのことは息子の方が詳しいんです。これからは、親子二代で、とびっきりのぶどうを作れるよう、夢とプロの気概を忘れないで頑張ります。」と抱負を語ってくださいました。
県内のぶどう作りの先駆者である宮岡さん。その生き方はぶどう作りだけでなく、すべての人が生きていくうえで忘れてはならないことを教えてくださるようで、「8月になってぶどうの季節がきたら、宮岡さんの作ったぶどうをぜひ食べてみたい。」と思わせてくれました。